

鴨越の坂落しはどこか

2024.08.25

「一ノ谷」地名の広狭二義説

学長 田辺真人

はじめに

1. 鴨越の坂落しの意義

二つの位置説

作戦上の意義

位置の根拠

(1)

(2)

2. 一ノ谷の戦い

源平合戦

平清盛：福原庄・築島（経が島）

福原の都1180・06・02～

1180年 8月源頼朝 関東で、

〃年 9月源義仲 木曾で挙兵

10月富士川の戦い→源頼朝は関東経営。

(→義仲は北陸に出、京に進軍

12月清盛は、平安還都

1181・2・4清盛病死（平 宗盛ら）

平氏滅亡：義仲進軍→1183年半、平家の「都落ち」 → 義仲上洛。貴族と対立→

1184年 1月源氏、滋賀で決戦（→1・20義仲敗死）

／ 1・26 平氏、福原・兵庫に

★ 〃年 2・7「

平氏敗走→四国屋島へ 1185・2 屋島の戦い → 〃・3 関門海峡の壇ノ浦で平家滅亡

『平家物語』

平家はこそ冬の比より、讃岐國八嶋の磯をいでて、攝津國難波瀧へをしわたり、福原の舊都に居住して、西は一谷を城郷に構へ、東は生田の森を大手の木戸口とぞさだめける。其内福原・兵庫・板屋と・須磨にこもる勢、これは山陽道八ヶ國、南海道六ヶ國、都合十四ヶ國をうちしたがへてめさるところの軍兵也。十万餘騎とぞ聞えし。

『義経記』

軍にも風波の難を恐れず、舟楫を走り給ふ事鳥のごとし。一谷の合戦にも城は無雙の城なり。平家は十萬餘騎なり。味方は六萬五千餘騎なり。城は無勢にて寄手は多勢こそ、軍の勝負は決し候に、これは城は大勢、案内者寄手は無勢、不案内の者どもなり。たやすく落つべきとも見え候はざりしを、鴨越とて鳥獸も通ひがたき巖石を無勢にて落し、平家を終に追落し給ふ事は凡夫の業ならず。

武功の達者一度も慣れぬ船

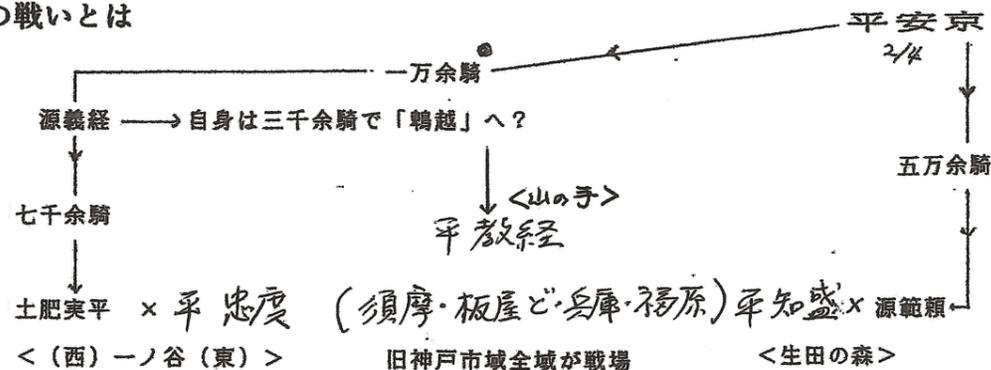
をぞつけられる。兄の越前三位通盛卿あひくして山の手をぞかため給ふ。山の手と申は鴨越のふもとなり。

六日の明ぼのに、九郎御曹司、一万餘騎を二手にわかして、まづ土肥次郎實平をば七千餘騎で一の谷の西の手へさしつかはす。わが身は三千餘騎で一の谷のうしろ、鴨越ををさむと、丹波路より搦手にこそまはられけれ。

七日の明ぼのに、一谷のうしろ鴨越にうちあがり、すでにおとさんとし給ふ九郎御曹司搦手にまはして

3. 一ノ谷の戦いと「飛脚」

(1) 一ノ谷の戦いとは



(2) 鴨越の坂落としの位置 — 2地点の可能性

(3) 田辺真人「一ノ谷地名広狭二義説」の論拠

『吾妻鏡』

八日、丁卯、關東の兩將、攝津國より飛脚を京都に進ず、昨日一谷に於て合戦を遂げ、大將軍九人を梟首す、其外誅戮千餘輩に及ぶの由之を申す。九日戊辰、源九郎主人入洛す、相具するの輩幾ばくならず、從軍追つて参洛す可きか、是平氏一族の首を大路に渡さる可きの旨、奏聞の爲、先づ以て鞭を揚ぐと云々、十五日、甲戌、辰烈、蒲冠者範頼、源九郎義経等の飛脚、攝津國より鎌倉に参著し、合戦の記録を獻す、其越、去る七日、一谷に於て合戦す、平家多く以て命を損す、前内府已下海上に浮びて、四國の方に赴く、本三位中将は、之を生虜る、又通盛卿、忠度朝臣、經俊、經正、師盛、教経、宗盛、宗隆、教盛、知章、業盛、盛俊、宗正、宗隆、此外梟首する者一千餘人、

『平家物語』

壽永三年二月七日、攝津國一の谷にてうたれし平氏の頭ども、十二日に宮へ入る。

薩摩守忠度は、一谷の西手の大將軍にておはしけるが

「六日の明ぼのに、九郎御曹司、一万餘騎を二手にわかして、まづ土肥次郎實平をば七千餘騎で一の谷の西の手へさしつかはす。わが身は三千餘騎で一の谷のうしろ、鴨越ををさむと、丹波路より搦手にこそまはられけれ。さる程に、源氏は四日よすへかりしが、故入道相國の忌日ときいて、佛事をとげせんがためによせず。五日は西ふさがり、六日は道忌日、七日の卯刻に、一谷の東西の木戸口にて源平矢合とこそさだめけれ。さりながら、四日は吉日なればとて、大手搦手の大將軍、軍兵二手にわかして都をたつ。」

# 「鴨越」とはどこなのか？ 神鉄ハイキングでの講座と鴨越駅の解説板

月刊神戸っ子  
2024  
6 June  
vol.753



多くのハイカーたちを前に、鴨越の坂落しについて解説する田辺先生

自然と歴史の宝庫、神戸電鉄沿線で開催されている好評の神鉄ハイキング。4月29日は義経の史跡を訪ねる「鴨越の坂落し」コースに多くの人が参加したが、そのスタート地点、西鈴蘭台駅前の公園では兵庫・神戸のヒストリアン、田辺眞人先生のレクチャーがおこなわれ、350名余りが参

加した。源平合戦のハイライトの1つ、一谷の合戦。田辺先生は平家・源氏それぞれの陣容から解説をスタート。平家側は東は生田の森、現在の生田神社に平知盛、西は須磨一谷に平忠度が陣を構え、その間に十万余騎を配した。一方の源氏側は都から兵を2つのルートで送り、源範頼は5万余騎を従えて西国街道で直行。かたや源義経は1万余騎の軍勢で北回りのコースを進んで篠山の南から小野、三木に至る。ここで義経は7千余騎を土肥実平に任せて塩屋を経て西側から須磨へ向かわせ、自身は3千騎ほどで鴨



田辺先生による解説が記された案内板が、鴨越駅新開地方面行きホームにお目見え

越から進軍し北側から平家軍の中央部へ攻撃を仕掛けたと考えられると田辺先生。ところで、その攻撃の起点である鴨越はどこなのか？



鴨越駅の駅舎には義経のイラストが

「鴨越道」とは古来より藍那から現在の神戸電鉄鴨越駅付近を経て夢野に至る道のことだ。しかし「平家物語」で「一谷の後なる鴨越」という記述があることから、鴨越が須磨の後ろの山だという解釈もある。

そんな疑問に田辺先生はズバリ斬り込む。もともと一谷とは鉢伏山の麓の谷、須磨の狭いエリアの地名だが、「平家物語」や「東鑑」では、生田から須磨にかけての広範囲の戦場全体についても「一谷」と記されているんです」と田辺先生。ゆえに一谷は狭義では須磨の一部だが、広義では現在の神戸の中心地を示している

と、具体的な古文書の記述をもとに解説した。鴨越の位置が広義の「一谷の後」と解釈すると、「平家物語」の記述に不自然はない。そのようなお話を聞いてから参加者たちは義経ゆかりの道のハイキングを楽しんだが、しばし時空を旅した気分になったことだろう。そして今回のコースの終点、神戸電鉄鴨越駅では新たに、田辺先

生による解説板が設置されている。今回の講演とハイキングは、その完成記念。また、神戸芸工大学の学生による巨大な義経のイラストも登場。源平合戦、そして義経ゆかりのスポットとして、より人気を集めそう。



1:50,000  
0 1000m 2000 3000

## 神戸がいわい 歴史を歩く

「兵庫・神戸のヒストリアン」田辺先生が神戸・阪神間・明石・三田の史跡・伝説の舞台を訪ねる歴史旅100話。

田辺 眞人・著

●書店、Amazon等で好評発売中！  
定価1,980円(税込)

神戸新聞総合出版センター ☎078-362-7138



YouTube  
【歴史家】田辺眞人のまっこと!チャンネル

ラジオ関西 AM558 FM91.1  
たじま放送局1395KHZ  
田辺眞人のラジオレクチャー  
毎週 土曜 午前 8:15~8:55

QRコード  
YouTubeチャンネル

TikTok  
【歴史家】田辺眞人  
QRコード  
TikTok